

（令和7年度中実績・令和8年度評価）

【評価点】
Ⅴ：計画を大幅に上回って実施している
Ⅳ：計画を上回って実施している
Ⅲ：計画を順調に実施している
Ⅱ：計画を十分実施できていない
Ⅰ：計画を大幅に下回っている

（※）あくまでも一例であり、列挙されている事例以外にも評価できるものがあれば、反映して評価を行う。

項目	小項目（年度計画より）		評価「Ⅲ」相当の例		評価「Ⅳ」相当の例		評価「Ⅴ」相当の例		法人自己評価		市長評価		評価委員会意見（要旨）
									評価点	理由	評価点	理由	
1-1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による動物園の魅力向上													
	1	コレクション計画に基づく新規希少動物の導入に向けて国内外他園等と調整を図る。	・動物導入に向けた準備・交渉などの調整実績	・動物導入に向けた準備・交渉により、園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例	・動物導入に向けた準備・交渉により、はるかに園の魅力向上に貢献できた事例	V	コレクション計画カテゴリSのアジアゾウについて、平成26年の春子死亡以降、12年間にわたり国内外の様々な関係機関と粘り強く調整を重ねてきた結果、令和8年3月にマレーシアから3頭の導入を達成した。平成30年のラニー博子死亡以来不在となっていたゾウを、約8年ぶりに導入できたことは特筆すべき成果である。また、導入直後の公表によりSNS等で話題となるなど、園の魅力向上に大きく貢献したため。同じくカテゴリSのアムールトラ、カテゴリAのケープハイラックスを導入し、いずれも約2年ぶりとなる展示再開を実現した。さらに、カテゴリAのフンボルトペンギンの入園により展示羽数を拡充した。	V	令和7年度は、アムールトラやケープハイラックス等、コレクション計画に基づく希少動物の導入を進めるとともに、長年にわたる国内外機関との調整を経て、令和8年3月にアジアゾウ3頭の導入を達成した。平成30年のラニー博子死亡以降、ゾウ不在の状況が続き、来園者から展示を希望する声が多く寄せられていた。そうした中で今回3頭の導入を実現したことは、来園者の期待に応えるとともに、本園の展示・教育機能の充実に資する取組として高く評価できる。また、導入にあたっては、国内最大級の放飼場を有するゾウ舎を整備するとともに、動物福祉と安全対策に配慮した準間接飼育を採用するなど、新たな取組にも着手した。今後は、糞中ホルモン測定等を活用した研究を推進し、得られた科学的知見を飼育管理の高度化や繁殖の推進に生かすことで、種の保存にも一層貢献することが期待される。				
	2	JAZAの種別管理者、専門技術員及び部員としての受嘱を継続し、個体群管理計画に連携して取り組み、展示動物の充実へ繋がるよう取り組む。	・種別管理者や専門技術員等を継続して受嘱した実績	・種別管理者や専門技術員等を新たに受嘱した実績 ・種別管理等の担当をすることで園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例	・種別管理等の担当をすることではるかに園の魅力向上に貢献できた事例	Ⅲ	種別計画管理者及び専門技術員として8種の繁殖計画推進会議に参画するなど、引き続きJAZAへ貢献することで、園の信頼向上に寄与できたため。	Ⅲ	法人評価のとおり				
	3	JAZA、WAZAの各種研究会等へ積極的に参加し、得られた情報を速やかに共有し、飼育技術向上を図る。	・研究会等へ参加し得られた情報を共有することで飼育技術の向上や動物のQOL向上、体調の良化につながった実績。 （指標：前年度と同水準）	・研究会等で得られた知識により飼育技術が向上し園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例	・研究会等で得られた知識により飼育技術が向上しはるかに園の魅力向上に貢献できた事例	Ⅲ	研究会等へ参加し得られた情報を共有することにより、職員の知識向上と動物福祉の向上を図ることができたため。	Ⅲ	法人評価のとおり				
	4	これまでのイベントの検証結果を踏まえ、今後のイベントのさらなる魅力向上（学習効果・集客力・リピーター増）に繋げる。また、110周年イベントを引き続き実施する。	・イベントの実施（110周年イベント含む）およびアンケートでのレポート項目の高評価	・検証結果を次期イベントに反映したことによる集客増やアンケートでの高評価 ・各イベントを実施したことによる園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例	・各イベントを実施したことによる園の魅力向上にはるかに貢献できた事例	Ⅳ	・ホッキョクグマイイベントにおいて、これまでのイベントの検証やアンケート結果の分析をもとに、相席制の導入による参加人数増加、ホッキョクグマ柄の保冷剤配布による暑さ対策、イベント終了後速やかに参加者以外のお客様が観覧できるようスペース確保のアナウンス実施等、様々な改善を行った結果、アンケートでの満足度がアップした。 ・110周年イベントとして、新企画の内容をはじめとする様々なイベントを多数実施した。 ・各イベントのアンケート結果について、満足度およびリピート希望率が90%を超える高評価のものが多く、園の魅力向上に繋がったため。	Ⅳ	法人評価のとおり				
	5	継続してファンクラブ募集に取り組むほか、法人ファンクラブについては営業戦略に基づく渉外営業を実施し、全体として前年度を超える会員数を目標とする。	・営業戦略に基づく渉外営業の実施 ・継続してファンクラブ募集に取り組み、前年度以上の会員数（ブチは口数）を獲得 （指標：前年度と同水準以上）	・営業戦略に基づく渉外営業や新たな取組を行いかつその取組によって生じた新規加入者数、リピーター数のあきらかな上昇	・営業戦略に基づく渉外営業や新たな取組を行いかつその取組によって生じた新規加入者数、リピーター数のあきらかな上昇	Ⅳ	特典内容を会員ニーズに合わせて改善し、ブチ会員には缶バッジ企画で口数拡大に繋がった。また、園内放送・ゲート掲出・SNS活用で認知を強化したことにより新規加入者がプレミアム200名（前年度比119%）、スマート71名（前年度比124.6%）増加したため。	Ⅳ	法人評価のとおり				
	6	ホームページの充実、番組企画やロケーションの積極的な受け入れを行い生物多様性の保全に関する理解に繋げるとともに、HP・SNSの閲覧実績やコメントの内容等を分析し、ニーズに合った情報発信を行う。	・生物多様性保全に関する情報等、継続した情報発信（多言語HPを含む） ・データ（HP・SNSの閲覧実績やコメントの内容等）を分析し、必要に応じた広報戦略の見直し	・生物多様性保全に関する情報等、継続した情報発信によって、園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例	・生物多様性保全に関する情報等、継続した情報発信によって、園の魅力向上にはるかに貢献できた事例	Ⅲ	継続して積極的な番組企画の受け入れを行うとともに、SNSによる番組宣伝やお客様目録の情報発信、ホームページの更新を行ったため。	Ⅲ	法人評価のとおり				
	7	引き続き、ホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づく取組（研修、研修効果定着のための取組など、研修効果チェック）を体系的に実施する。	・アンケートによる来園者の満足度 ・方針に基づく研修実施とボランティアによる効果チェック等の実施 （指標：前年度と同水準）	・前年度を超える来園者の満足度（原因分析含む）のあきらかな上昇	・前年度を超える来園者の満足度（原因分析含む）のはるかな上昇	Ⅲ	これまでのホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づいた研修により、お客様満足度アンケートでスタッフの対応に満足したお客様の上昇及びボランティアによる効果チェックに代わり、覆面調査員による効果チェックを実施し、その結果を踏まえてホスピタリティマインド研修を実施したため。	Ⅲ	従来のホスピタリティマインド醸成研修の効果検証のため、令和7年度から新たに専門家によるお客様満足度調査を実施した結果、一定定着していることが確認できたため。また、さらなる満足度上昇を目指し、当該調査で判明した要改善事項を、以後の研修に反映し実施したため。				
	8	定期点検に加え、職員による日常点検や来園者の声を踏まえた美観保持に取り組む。	・定期点検の継続実施 （指標：前年度と同水準）	・継続した定期点検により新たに快適な園内環境の創出にあきらかに貢献できた事例	・継続した定期点検により新たに快適な園内環境の創出にはるかに貢献できた事例	Ⅲ	職員による点検の継続実施及び来園者の声を分析し、美観保持や改善に反映できたため。	Ⅲ	法人評価のとおり				
	9	「園内掲示物整備アクションプログラム」に基づく園内掲示物の点検及び更新を行うほか、リニューアル獣舎についても統一感のある掲示物を作成する。	・アンケートでの高評価 ・園内掲示物の点検、更新及び作成の実施 （指標：前年度と同水準）	・園内掲示物の点検、更新及び作成を行ったことにより新たに快適な園内環境の創出にあきらかに貢献できた事例	・園内掲示物の点検、更新及び作成を行ったことにより新たに快適な園内環境の創出にはるかに貢献できた事例	Ⅲ	園内掲示物の点検、更新及び作成を実施するとともに、お客様満足度アンケートでやや満足以上が90%以上と高評価を得たため。	Ⅲ	法人評価のとおり				
	10	令和7年度完成予定の施設（ホッキョクグマ舎、アジアの森）について、ユニバーサルな観覧環境に配慮した整備を実施する。	・ユニバーサルな観覧環境に配慮した施設整備の着実な実施	・予算の範囲内で、当初計画以上のユニバーサルデザインを採用し快適な園内環境の創出にあきらかに貢献できるといえる場合	・予算の範囲内で、当初計画以上のユニバーサルデザインを採用し快適な園内環境の創出にはるかに貢献できるといえる場合	Ⅲ	ユニバーサルな観覧環境に配慮した施設整備を実施したため。	Ⅲ	法人評価のとおり				
	11	来園者の声を分析し園運営の改善に取り組む。（HP・SNS含む。）	・来園者の声を分析し園運営を改善	・園運営を改善したことによって、園の魅力向上にあきらかに貢献できた事例	・園運営を改善したことによって、園の魅力向上にはるかに貢献できた事例	Ⅲ	アンケートを通じて来園者の声を聞き取り分析することで、掲示物の更新や新たな動物舎での掲示を実施するなど、園運営を改善することができたため。	Ⅲ	法人評価のとおり				
	12	大阪・関西万博の広報に協力するとともに、万博開催を機に当園に訪れた国内外のお客様に対する「おもてなし」を実施する。	・大阪・関西万博の広報協力 ・国内外の来園者に対する新たなサービスの実施	・新たなサービスにより、来園者の満足度向上にあきらかに貢献できた事例	・新たなサービスにより、来園者の満足度向上にはるかに貢献できた事例	Ⅲ	様々な取組を実施することで、万博の広報や国内外からの来園者サービスに十分寄与できた。特にスタンプラリーについては好評で、ミャクミャクが掲載された台紙の追加発注に至った。	Ⅲ	法人評価のとおり				

項目	小項目（年度計画より）		評価「Ⅲ」相当の例	評価「Ⅳ」相当の例	評価「Ⅴ」相当の例	法人自己評価		市長評価		評価委員会意見 （要旨）
						評価点	理由	評価点	理由	
1－2 動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進										
	13	おやつ・ごはんタイムの内容について再検討し、動物の生態等に関する理解や関心を深めてもらえるよう改善する。	・アンケート結果等から、動物の生態等に関する理解や関心を深めることに繋がったことが確認できた事例 （指標：前年度と同水準）	・教育的イベント実施により、教育普及活動にあきらかに貢献した事例	・教育的イベント実施により、教育普及活動にはるかに貢献した事例	Ⅲ	おやつタイムの実施種を拡大しながら効果検証を行い、来園者アンケートに基づき、コミュニケーション手法の改善に向けた具体的な方向性を整理した。これにより、令和8年度以降の取組につながる実践的な検討を実施できたため。	Ⅲ	法人評価のとおり	
	14	令和6年度のアンケート結果を基に課題を抽出し、「教育普及アクションプラン」に基づいたメニューやその内容について、改善を図り、より高い教育効果へつなげる。	・教育普及アクションプランに基づくメニューの実施 （指標：前年度と同水準）	・教育アクションプランに基づく取組により教育普及活動にあきらかに貢献した事例	・教育アクションプランに基づく取組により教育普及活動にはるかに貢献した事例	Ⅲ	定例のディスカバー・プログラムや企画展だけでなく、開園110周年を記念した企画展やイベントを複数件開催したため。	Ⅲ	法人評価のとおり	
	15	「天王寺動物園ボランティアクラブ1915」の活動機会を増やす。また、NPO法人や学校・企業等と連携したイベントを実施することで来園者の学習機会を増やす。	・ボランティアの参加可能イベント数（種類）を増加させる ・NPO法人や大学等と連携したイベントを実施することで来園者の学習機会を増加させる （指標：前年度と同水準以上）	・学習機会を提供したことにより教育普及活動にあきらかに貢献した事例	・学習機会を提供したことにより教育普及活動にはるかに貢献した事例	Ⅲ	ボランティアの参加可能イベント数（種類）を増加させ、企業等との連携したイベントを実施することで来園者の学習機会を増加させたため。	Ⅲ	法人評価のとおり	
1－3 動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術確立										
	16	令和5年度に起きた動物の逸走事故を踏まえ、獣舎整備の際、逸走防止の観点を重視した確認を徹底するとともに、ヒヤリハットについては即時記録、即時共有を図り、安全衛生委員会での共有を図る。	・ヒヤリハットの定期的な事例共有及びマニュアルの定期的な検証 ・R5に発生した逸走事故を踏まえた安全教育の実施	－	－	Ⅲ	ヒヤリハットの定期的な事例共有及び動物舎においてあらたに動物の居室を示す看板や指差確認喚呼を促すプレートの設置が完了した。また、新たに特定動物を飼育する動物舎への監視カメラの設置が完了したため。	Ⅲ	法人評価のとおり	ヒヤリハット事例の報告及び共有を強化しているのは良いことだが、報告だけで満足することなく根本要因の減少に向けた取組を進めてほしい。
	17	「環境エンリッチメントおよびハズバンダリートレーニング取り組み方針」で定めた取組み種について、トレーニング実施種を37種から目標種数である40種（実施率100%）を目指す。また、環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニングともに量的評価だけでなく、対象個体の行動レパトリーの評価等、質的評価の導入を検討し、飼育動物の生活の質向上を進めるとともに、実施職員の増加により技術向上に努める。	・取組み種の継続実施および拡充と効果検証（R7当初目標＝ハズバンダリートレーニング：40種、エンリッチ：58種） ・新たな質的評価の導入の検討	・拡充および効果検証したことによる飼育技術があきらかに高度化した事例 ・行動レパトリーの増加など質的向上が認められた場合。	・拡充および効果検証したことによる飼育技術はるかに高度化した事例	Ⅳ	トレーニングおよび環境エンリッチメントの対象種を拡大するとともに、トレーニングの継続および新たなトレーニング内容の追加、ならびに環境エンリッチメントの取組を通じて新たな行動の発現を促した。その結果、行動レパトリーの増加など質的向上が認められ、飼育技術の高度化を実現した。 加えて、来園者を対象としたエンリッチメントツール作成ワークショップを複数回開催することで、エンリッチメントの実施件数の増加にとどまらず、参加者に環境エンリッチメントの意義や手法について理解を深めていただく機会を提供することができたため。	Ⅳ	法人評価のとおり	取組の幅を広げ、様々なチャレンジをしていることは評価するが、対象種の数値目標に偏重することなく、効果の検証など、動物福祉の向上に重心をおいて進めてほしい。
	18	令和6年度策定した「（仮称）新病院・研究棟／調理場 整備事業基本構想」を踏まえ、基本計画を策定する。	・基本計画の策定	・診療・研究環境が向上し、かつ予算をあきらかに下回る基本構想内容	・診療・研究環境が向上し、かつ予算をはるかに下回る基本構想内容	Ⅲ	基本計画につながる適地選定の調査ができたため。	Ⅲ	法人評価のとおり	
	19	第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎を完成させる。	・計画どおりの進捗（整備費増額・工期延長などの未然防止）	・予算増額を伴わずかつ計画をあきらかに上回る飼育環境の整備事例	・予算増額を伴わずかつ計画をはるかに上回る飼育環境の整備事例	Ⅲ	アジアの森ゾーン・ホッキョクグマ舎が計画どおり完成したため。	Ⅲ	法人評価のとおり	獣舎の整備は遅れることが多い中で、目標どおりではあるが、工期内で整備が完了したというのは法人の努力があつてのものと考ええる。
	20	既存獣舎の点検・補修について、維持管理計画に基づき実施するとともに、動物福祉の観点にも考慮し必要な小規模な改修を計画的に実施する。	・計画に基づいた改修等の着実な実施（例：爬虫類生態館の外壁改修、昇降機設備改修	・補修・点検・改修を着実に実施したことによるあきらかな飼育環境向上の事例 ・予算増額を伴わない計画をあきらかに上回る改修の進捗	・補修・点検・改修を着実に実施したことによるあきらかな飼育環境向上の事例 ・予算増額を伴わない計画をはるかに上回る改修の進捗	Ⅲ	計画に基づいた改修等が完了したため。	Ⅲ	法人評価のとおり	
1－4 繁殖及び調査研究活動の推進										
	21	繁殖推進種ごとに新たな繁殖推進種における環境整備項目（チェックポイント）を設定し、繁殖に向けて継続的に取り組む。	・チェックポイント項目の継続実施およびチェックポイントの見直し実績 （指標：前年度と同水準）	・チェックポイントを見直したことにより、種の保存にあきらかに貢献した事例 ・チェックポイントに基づき取り組んだ結果、繁殖に成功した場合	・チェックポイントを見直したことにより、種の保存にはるかに貢献した事例	Ⅲ	チェックポイント項目の継続実施およびチェックポイントの見直しを行ったため。	Ⅲ	法人評価のとおり	
	22	繁殖相手方の産卵（無精卵）のタイミングにあわせ、採精できるよう、オグロヅル（オス）の精液採取手技の確立に引き続き取り組むとともに、実際の人工授精を目指す。	・オグロヅルの適切なタイミングでの採精および人工授精ができた実績。	・オグロヅルの人工繁殖により種の保存にあきらかに貢献した事例	・オグロヅルの人工繁殖により種の保存にはるかに貢献した事例	Ⅲ	オグロヅルの適切なタイミングでの採精に成功した。 一方で、メス個体が産卵に至らず人工授精の実施には至らなかったが、繁殖機会の確保および種の保存の観点から、産卵を継続しているメス個体を飼育する他園へ移動させるなど、状況に応じた適切な対応を行ったため。	Ⅲ	法人評価のとおり	
	23	オオサンショウウオ調査について兵庫県自然保護協会と連携して府内の調査に同行し、生息域内保全への取組の足掛かりとする。これに伴い、生息情報の蓄積と啓発活動を行い、府民の生息域内保全への理解を深める。	・オオサンショウウオの保全に繋がる企画の立案および実施 ・啓発イベントにおける参加者アンケートの設問を工夫し、理解が深まった方が60%を超えた場合。 （指標：前年度と同水準）	・啓発イベントにおける参加者アンケートの設問を工夫し、理解が深まった方が80%を超えた場合。 ・企画展の実施により、種の保存にあきらかに貢献した事例	・企画展の実施により、種の保存にはるかに貢献した事例	Ⅲ	オオサンショウウオ調査について兵庫県自然保護協会と連携して府内の調査に同行するだけでなく、これまでの調査実績が評価され、当園職員のみでの定期調査も実施できる体制を確立した。さらに、日本産動物の多様性と共生をテーマとしたイベントを初めて開催し、多くの参加を得るとともに高い教育効果を上げた。加えて、別途実施したオオサンショウウオ関連イベントのアンケートにおいて、理解が深まったと回答した参加者（高評価）が60%を超える結果となり、普及啓発の有効性が確認されたため。	Ⅲ	法人評価のとおり	単独での調査が可能となり、日本産動物の生息域内保全の取組が開始できているという点は高く評価する。
	24	「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」で定めた重点領域である①動物繁殖生理学領域（種の保存）②動物行動学領域（動物福祉）③その他基礎研究領域（生物多様性）において、連携協定を締結した大学・機関、その他様々な組織と継続的に調査研究へ取り組む。	・調査研究の継続 （指標：前年度と同水準）	・調査研究を継続したことにより、飼育管理等にあきらかに貢献した事例 ・園独自もしくは連携協定による具体的な調査研究の成果があらわれた場合	・調査研究を継続したことにより、飼育管理等にはるかに貢献した事例 ・査読付き学術誌掲載レベルの論文の執筆	Ⅲ	園内、他施設との共同研究とともに調査を継続して実施したため。	Ⅲ	法人評価のとおり	
	25	園内掲示、ホームページ等で共同研究実績や、取組段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図るとともに、当園の成果については研究会等で発表する。	・園内掲示（ポスター）、HPの充実 ・共同で進めている研究実績などの発表 （指標：前年度と同水準）	・複数の異なる職員による研究発表 ・園内掲示（ポスター）、HP等での公表 ・知見を共有かつ研究発表したことにより、飼育管理等にあきらかに貢献した事例	・知見を共有かつ研究発表したことにより、飼育管理等にはるかに貢献した事例 ・学術学会での各種賞の受賞	Ⅳ	7つの研究会で9名の職員により発表を行い、当園の取組を他園に情報共有を図った。キリン研究会では自園での削蹄の紹介を行うと共に他園の事例や基本的な削蹄道具の取扱い、道具の手入れも含め今後の蹄のケアに大変参考になった。また、獣舎周辺に発表の概要をポスターで掲示し、来園者にも園で取り組んでいる研究内容を周知したため。他機関との共同研究についてHPに掲載した。	Ⅳ	法人評価のとおり	研究発表を数多く実施しており、高く評価する。今後は論文を数多く投稿することが、ステップアップにつながると思う。

項目	小項目（年度計画より）		評価「Ⅲ」相当の例	評価「Ⅳ」相当の例	評価「Ⅴ」相当の例	法人自己評価		市長評価		評価委員会意見 （要旨）
						評価点	理由	評価点	理由	
2－1 自律的な組織経営										
	26	引き続き法人の目指す姿を対外的に発信する。また、法人の目指す姿の実現に向け、職員の意識醸成等に継続的に取り組む。	・ホームページ等での情報公開の充実（指標：前年度と同水準）	・職員の意識醸成のためのあらたな取り組みを行い、その結果としてアンケート結果などで行動変容が見られた場合	－	Ⅲ	各職員への研修を実施し、ホームページ等で情報発信の充実を図ったため。（評価事例のとおり）	Ⅲ	法人評価のとおり	
	27	法人の組織体制（外部の専門人材登用含む）について検討し、随時採用をはじめ柔軟に対応する。	・各課へのヒアリングによる組織体制の点検・検討の継続 ・実施効果の検証（指標：前年度と同水準）	－	－	Ⅲ	人員体制についてヒアリングなど点検作業を実施し、採用活動も含め計画どおり実施したため。（評価事例のとおり）	Ⅲ	法人評価のとおり	
2－2 人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起										
	28	必要に応じて人材育成方針及び計画の修正、資格取得支援対象資格の追加を行う。	・方針及び計画の必要に応じた見直し ・資格取得支援の仕組みの周知 ・必要に応じた支援対象資格の追加（指標：前年度と同水準）	－	－	Ⅲ	方針及び計画の必要に応じた見直しを行ったため。また資格取得支援制度の見直しを実施したため。（評価事例のとおり）	Ⅲ	法人評価のとおり	
	29	人材育成方針及び計画、提案型研修制度に基づき研修を実施する。多様化、複雑化に伴い内容が相互に関連、重複する研修については類型化のうえ体系的に実施する。	・類型化のうえ体系的に整理した研修の実施（指標：前年度と同水準）	・人材育成方針及び計画に基づき研修を実施したことにより、職員の能力・意欲喚起がはるかに向上した事例 ・提案型研修への実施の結果、法人の課題解決及び人材育成上の効果があった場合	・人材育成方針及び計画に基づき研修を実施したことにより、職員の能力・意欲喚起がはるかに向上した事例 ・提案型研修への実施の結果、法人の課題解決及び人材育成上の効果があった場合	Ⅲ	計画的に研修を実施し、新しい研修についても検討するなど現状を反映し修正したため。	Ⅲ	法人評価のとおり	
	30	令和6年度に構築したインセンティブが働く評価制度について定着を図るとともに、制度の検証を行い、必要に応じて見直しを行う。	・アンケート等による検証結果の分析を含む人事評価制度の運用 ・必要に応じた見直し	・検証結果の分析を含む人事評価制度の運用により職員の能力・意欲喚起がはるかに向上した事例	・検証結果の分析を含む人事評価制度の運用により職員の能力・意欲喚起がはるかに向上した事例	Ⅲ	アンケート等による検証結果の分析を行い、見直しを行いながら人事評価制度の運用を行ったため。	Ⅲ	法人評価のとおり	
2－3 効果的・効率的な業務執行										
	31	年度計画及び中期計画の進捗状況について定期的に市と確認する。	・進捗管理シートによる進捗状況の確認及び市との共有 ・中間評価の実施（指標：前年度と同水準）	－	－	Ⅲ	年度計画や中期計画の進捗状況を定期的に市と確認・共有し、スケジュールに沿って中間評価（年度計画）、見込み評価（中期計画）が行えたため。同時並行で、第2期中期計画についても円滑に策定できたため。	Ⅲ	法人評価のとおり	
	32	人事財務システムの安定運用を図るため、操作マニュアルの更なる充実を進めるとともに、必要に応じてバージョンアップやワークフローシステムなどの新たなシステム導入を検討する。	・導入しているシステムの安定運用（指標：前年度と同水準）	・導入しているシステムによりあきらかに効果的・効率的な業務執行ができた事例	・導入しているシステムによりはるかに効果的・効率的な業務執行ができた事例	Ⅲ	バージョンアップ等を適宜実施することで安定運用ができたため。（評価事例のとおり）	Ⅲ	安定的なシステム運用に努めたほか、今後、業務の効率化に活用すべく新たにkintoneを導入したため。	
3－1 収入の確保										
	33	入園料収入5.3億円・入園者数181万人を目標とする。（令和7年度予算）	・目標値の達成	・目標値をあきらかに上回り、その原因把握・分析ができた場合	・目標値をはるかに上回り、その原因把握・分析ができた場合	Ⅱ	周辺施設との連携や海外用web販売等、新たな取組を行ったものの、大阪・関西万博の開催で他施設と同様に観光需要が万博会場周辺へ集中したことや、猛暑の長期化の影響もあり、入園料収入、入園者数共に目標値の達成ができなかったため。	Ⅱ	法人評価のとおり	・入園者数の目標値については、猛暑や少子化の影響もあることから、安易に右肩上がりを想定せず、減少要因をしっかりと反映させた値を設定する必要がある。 ・目標には届かなかったが、猛暑などの減少要因がある中で、前年並みの入園者数を維持できているのは評価できる。 ・企業との連携は、収入の確保に有効であるため、継続するとともに更なる工夫も実施いただきたい。
	34	2回目のクラウドファンディングを実施する。	・クラウドファンディングの目的達成	・クラウドファンディングにおける新たな取り組みを行い、目標額を上回った場合 ・クラウドファンディングの支援者をファンクラブ会員へあきらかに取りこめた場合	－	Ⅳ	ウェブサイトだけでなく、両ゲートでの募金箱の設置や直接受領の取組により、当初目標としていた1stゴールのみならず、2ndゴールの目標金額を達成したため。	Ⅳ	法人評価のとおり	
	35	寄附額13百万円（ファンクラブ、クラウドファンディングを除く）を達成する。	・目標額の達成	・目標値を超えかつ収入確保に向けた新たな取組事例	－	Ⅳ	寄附総額83百万円と目標額を大幅に超えただけでなく、寄附付き入園券の運用開始及び運用変更、ライオン募金の投入口の改良といった新たな取組を実施したため。	Ⅳ	法人評価のとおり	
	36	園内事業者と連携しながらオリジナルグッズの開発と販売促進を行い、売上目標額23百万円を達成する。	・目標額の達成	・目標値を超えかつ収入確保に向けた新たな取組事例	－	Ⅲ	前年度比で入園者数は減少したが、110周年コラボの記念グッズの売れ行きが好調なこともあり、目標額を達成したため。（約5百万円超）	Ⅲ	法人評価のとおり	
3－2 経費の節減										
	37	・ごみの排出量削減及びペーパーレス化に取り組む。 ・水道・電気使用量について、前年度（令和6年度）と比較・検証を行い、使用量節減の方策を検討・実施する。 ・これまでの包括施設管理業務委託（令和4年8月～令和7年7月）を踏まえ、次期（令和7年8月～）の発注を維持管理業務の効率化（例：紙管理⇒データ管理等）を考慮した内容に見直し、契約後実施する。	・排出量や使用量の節減 ・水道・電気使用量の節減方策の検討 ・包括施設管理業務委託の効率化の検討（契約含む）	・大幅な経費節減 ・新たな経費削減事例	－	Ⅲ	猛暑の影響により電気・水道使用量の抑制が難しい状況の中、安全確保に配慮しつつ、節電・節水の取組を継続的に実施し、可能な範囲で排出量および使用量の節減に努めたため。	Ⅲ	猛暑による動物の健康維持に必要な電気・水道の使用量増加のほか、施設の不備への対応・工事の実施に伴う使用量増加といった不可避の要因もあったものの、これらの増加要因を除けば昨年度比で削減できているため。	
	38	第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎の整備費について、新たに不可避要因等の外部影響による増額が見込まれる場合は、内容や仕様の見直し等を行い、中期計画で定める予定額内で整備する。	・第一期リニューアル整備事業の中期計画で定める事業費内での整備（指標：中期計画で定める予定額7,262百万円未満）	・第1期リニューアル整備事業のあきらかな事業費削減	・第1期リニューアル整備事業のはるかな事業費削減	Ⅲ	コスト管理を徹底し、第一期リニューアル整備事業が中期計画で定める事業費内で完了できたため。	Ⅲ	法人評価のとおり	近年の物価高騰や労務単価の上昇を考慮すると、予算内で遅延なく整備が完了したことは法人の努力があったと考える。

項目	小項目（年度計画より）	評価「Ⅲ」相当の例	評価「Ⅳ」相当の例	評価「Ⅴ」相当の例	法人自己評価		市長評価		評価委員会意見 （要旨）	
					評価点	理由	評価点	理由		
4 その他法人の業務運営に関し必要な事項										
	39	内部統制委員会において、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告を踏まえ、必要な改善策を検討する。	・内部統制体制に関する定期的な検証	—	Ⅲ	内部統制体制に関する定期的な検証を行ったため。	Ⅲ	法人評価のとおり		
	40	リスク管理規程に基づくリスク管理を着実に実施する。	・リスク管理の取り組み （指標：前年度と同水準）	—	Ⅲ	計画的にリスク管理に取り組んだため。（評価事例のとおり）	Ⅲ	法人評価のとおり		
	41	諸規程について必要に応じて見直しや整備を行うとともに、特に重要な規程（就業規則、職員倫理規程、契約規則など）については、全職員を対象とした研修を定期的に実施する。	・諸規程の更新 ・全職員や階層別研修の実施 （指標：前年度と同水準）	—	Ⅲ	諸規程類の運用状況を確認し、適宜改定および新規整備を行ったため。	Ⅲ	法人評価のとおり		
	42	コンプライアンス意識の浸透のため、研修のほか強化月間などの取組を継続して実施する。	・コンプライアンスの取り組み （指標：前年度と同水準）	—	Ⅲ	コンプライアンス研修を実施するとともに、1月をコンプライアンス強化月間とするなど、コンプライアンス意識の浸透を図ったため。	Ⅲ	法人評価のとおり		
	43	個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう、研修等で周知を図る。	・継続した研修の実施	—	Ⅲ	4月に個人情報流出のインシデントが発生したが、その後の研修等で改めて個人情報の取扱と管理の重要性を説明し、その後の再発が防止できたため。	Ⅲ	法人評価のとおり		
	44	内部監査・監事監査を実施するとともに、改善措置や不適正な事案等の発生を受けた再発防止策が講じられているかを随時監査において確認する。 また、市の監査結果における指摘事項が改善されているかも併せて確認する。	・内部監査・監事監査の実施 ・随時監査の実施 ・市の監査結果にかかる指摘事項の改善内容の確認・措置の実施	—	Ⅲ	内部監査・監事監査を実施したため。	Ⅲ	法人評価のとおり		
	45	セキュリティポリシー、マニュアルの運用状況を適宜検証のうえ改訂を行うとともに、設立団体である大阪市と同等の研修を実施する。	・必要に応じたマニュアルの改訂および研修の実施 （指標：前年度と同水準）	—	Ⅲ	セキュリティポリシーに基づきPCのアップデートを行うとともに研修を実施したため。	Ⅲ	法人評価のとおり		
	46	第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎の工事が継続することから、工事に伴う事故が無いよう来園者及び職員の安全対策を実施する。	・設計・工事の法令順守および来園者・職員の安全対策の実施	—	Ⅲ	工事車両の動線分離や安全な移動通路の確保など、来園者・職員の安全対策を着実に実施したため。	Ⅲ	法人評価のとおり		
	47	来園者と職員の安全確保及び安定した園運営の観点から、獣舎及び園内施設の定期点検を着実に行う。	・定期点検の着実な実施 （指標：前年度と同水準）	—	Ⅲ	定期点検を着実に実施し、安全確保等に寄与できたため。	Ⅲ	法人評価のとおり		
	48	令和6年度の実施結果により、より来園者の安全確保につながる効果的な猛獣脱出訓練として、シナリオを通知しない訓練及びあらたに想定される複数の動物逸走について机上訓練を実施する。	・関係機関と連携した災害訓練の実施 ・効果的な猛獣脱出対策訓練の実施 （指標：前年度と同水準）	—	Ⅲ	防災研修を行い、全職員を対象に猛獣脱出時の体制確認及び手順を再確認するとともに、捕獲道具の保管場所や使用方法について周知を徹底し、緊急時対応の向上を図ったため。	Ⅲ	法人評価のとおり		
	49	安全衛生管理体制を確立するとともに、健診等も含め職員の健康保持のための取組を進める。	・安全衛生管理体制の確立と健診等の着実な実施 （指標：前年度と同水準） ・事故及びヒヤリハット事例の前年度からの減少	—	Ⅲ	安全衛生管理委員会を定期開催した他、健康診断、ストレスチェック、健康講座、事故・ヒヤリハット事例の共有を着実に実施したため。	Ⅲ	健診等を着実に実施し、職員の健康保持に向けた取組を進めている。ヒヤリハット事例については、報告ルールの見直しや共有の周知を進めた結果、リスクの可視化と再発防止に向けた土台づくりにつながっている点は評価できるため。		
	50	SDGsに関する園内での取組を拡充するとともに、企業等と協働しSDGsの取組を進める。	・SDGsの園内での取り組み拡充及び企業等との協働 （指標：前年度と同水準）	・SDGsの園内での取り組み拡充及び企業等との協働しあきらかに地球環境保全に貢献した事例	・SDGsの園内での取り組み拡充及び企業等との協働しはるかに地球環境保全に貢献した事例	Ⅲ	ユニフォームのアップサイクル、企業等と協働したイベントや食品ロスの削減を継続して行ったため。	Ⅲ	法人評価のとおり	
	51	引き続き、法人に対する理解を深めてもらうよう、財務諸表や年報をはじめとする法人情報等の情報公開を推進する。	・財務諸表や年報の公表 （指標：前年度と同水準）	—	Ⅲ	財務諸表や年報等について遅滞なく公表したため。	Ⅲ	法人評価のとおり		
	52	これまでの事案や令和6年度の状況を踏まえ、必要に応じてBCPの改定を行う。	・BCPの検討の推進及び改定	・BCPの内容について拡大及び充実 （指標：令和3年度策定版）	—	Ⅲ	BCPの検討を推進するとともに、改定に向けた検討を行ったため。	Ⅲ	法人評価のとおり	